

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 3月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	4270135157
法人名	医療法人長寿会
事業所名	グループホーム本原一丁目
所在地	長崎県長崎市本原町1 3－5 (電 話) 095-860-0505
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 2月27日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 4.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート 造り
	4 階建ての 2～4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	33,000円		その他の経費(月額)	円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要 (2月27日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	0 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低 81 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人長寿会清原龍内科 朝永整形外科 角町歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街に位置し公園や商店街などが周辺にあり、日常的な外出のきっかけ作りができやすい環境にある。最上階にあるリビングは日当たりがよく、利用者も好んで穏やかに一日を過ごしている。趣味の生け花や俳句をしたり、皆でレクリエーションをしたり個々自由に過ごしており、利用者の楽しげに会話をされている表情が印象的である。また、職員は理念を十分に理解し、利用者を人生の先輩として接し個々の能力を最大限に引き出す努力をしている。職員の介護に対する前向きな姿勢は個々の介護目標と、研修の参加率の高さからも理解できる。それは法人全体での研修や学習のバックアップ体制の完成度、充実度からくるものである。運営推進会議を通し自治会・包括センター・事業所間の情報交換が盛んであり、利用者を主とした地域に密着したサービスを実践している事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善項目は、職員全員で話し合い改善に向けた方法、対策が出され、その内容を改善シートにまとめている。その改善シートは管理室に貼り、改善が出来た所から一つずつ消していく取り組みがなされており、改善が完了しているのが確認された。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 本年度から地域密着型サービスとなったため、運営推進会議の中で話しあったり、職員自身が全項目を記入することで、新ためてその意義を認識するなどの取り組みがなされている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1度開催しており、構成メンバーは自治会長、民生委員、地域包括支援センター管理職、家族代表である。運営推進会議の提案を活かし、ホーム紹介のプレス自治会の回覧板で廻してもらうなど、利用者や家族等が地域住民との関係を築きやすいような取り組みがなされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員は、利用者と共に家族に対する心使いを大事にしており、家族からは感謝の言葉がある。サービス等について要望が出た場合はスタッフで話し合い、先ず実践してみて、それを踏まえて家族と話し合いを持ち意向を聞くなど、家族の意見を尊重した対応に努力している
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所近隣のスーパーや美容室、散歩、自治会の行事である敬老会や小旅行にも参加するなどして交流を深めている。事業所の内容や状況を地域の方に紹介するプレスを作成して、回覧板でまわすなどの取り組みがなされ、今後地域との連携がますます期待される。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を基に、地域密着型サービスの意義を運営推進会議にて話し合い作成に携っている。お互いを尊重し合い、心をこめて接し、家庭的な雰囲気大切に、地域の中における安心した暮らしや繋がりを支援する理念として作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関入り口、リビングに掲示しており、職員全員が理念を共有しており、利用者と共に暮らしていることが認識され、理念が日々生活の中で実践される取り組みがなされている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の行事である敬老会や小旅行に出かけたり、年2～3回の地域の大掃除にも積極的に参加するなど、地域との交流がなされている。回覧板を通してホームの様子を地域の方へアプローチするなど地域の方との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価での改善項目については、ミーティングで改善検討し、その結果を職員全員が見える所に掲示して改善できたことから消していくという努力がなされている。自己評価においては職員全員で検討し評価の意義を新ためて考える場として取り組んでいる。		

グループホーム 本原一丁目

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催している。自治会長、民生委員、地域包括支援センター管理者、家族代表で構成されており、出席者からの意見を参考に日々のサービス向上に努めて、地域との交流を深める場として質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のすこやか支援課で事業管理者研修がある際に、その場で相談事項や意見交換などをして、市の職員の協力を得ながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月1度、日常の利用者の様子や外出、行事などの写真を載せたプレスを郵送している。また、利用者の制作した作品なども渡している。月1度の家族の面会時に金銭出納帳の確認、家族の意見や案内事項の確認をとり同意を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームへの訪問や電話で家族からの要望がでた場合は、先ずスタッフで話し合っ実践し、それを踏まえて家族と話し合い、意向を聞くなど努力がなされている。会議録で経緯が確認できた。重要事項説明書に第三者委員や県や市の窓口が明記されたまたその手順がわかりやすく説明されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限度に抑えるようにしている。また、職員全員で一人ひとりの利用者を支援しているため、異動があった場合にも他の職員がカバーすることで利用者のダメージが少なくすむように配慮している。		

グループホーム 本原一丁目

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は全職員が受講できる体制が取られており、毎月参加の2水会と、自己啓発のためにグループホーム間でつくっている四水会の勉強の場がある。研修内容はファイルして保管されており、全職員が共有できている。新人研修としてベテラン職員をリーダーに全員で指導する、いわゆる実践でのトレーニングをしている。そのための体制作りも構築されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月第4水曜日の4水会を通じ、研修会を利用して他のグループホーム職員との情報交換などのネットワークを構築して連携を深めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前にケアマネージャーがモニタリングを行い、医師の意見、看護師の記録など医療面と生活面を合わせた内容をスタッフ会議にて協議する。馴染むまでの3ヶ月は生活援助計画を立て、落ち着くまではその都度家族と相談しながら様子を見るようにしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段から利用者に日常のことを教えてもらっている。昔の話では戦争や原爆のつらい過去の悩みを感じることがあり、おたがいの喜怒哀楽を共にに支えあう関係作りを築いている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族と職員の雑談の中で出た利用者の意向などを記録して、職員全員で共有化し、利用者の思いなどを把握するように努めている。言葉の不自由な利用者については日々の行動や表情、発する単語の中より汲み取り確認するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会議の中で利用者がより良く暮らせるように、本人の意向を尊重し、家族や担当医師との話し合いのもと、それらを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の見直しだが、月1回のスタッフ会議で計画、内容の問題点や改善点を全員で検討して、それに担当医師や家族の要望を取り入れ見直しをしている。状態が変化した際には、その都度現状に即した新たな計画を作成している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、散歩、外出、近隣のスーパーへの買い物、家族からの要望がある時は外泊などの柔軟な支援をしている。		

グループホーム 本原一丁目

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族は入居以前のかかりつけ受診が可能で受診支援も行っている。月1度法人の病院による往診、受診の支援を行っている。状況に合わせて整形外科、皮膚科、眼科、歯科、家族の要望でマッサージ等個々に対応できる適切に受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との間で看取りや重度化した場合についての話し合いがなされており、対応に関しての同意を得ている。ターミナルケアは事業所の基本方針であるので、職員、看護師、主治医、家族との連携体制が整っており、対応時の職員の不安は看護師と職員でカバーするようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特に集団の中での声かけは内容にも気をつけている。たとえばトイレ誘導は自発的行動になるように声かけをしている。職員は入社時に職員の誓約書作成している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを中心にした生活が送れるように、利用者との会話を大切に表情を見ながら希望を察知し支援を行ない、また利用者のその日の希望や状態は職員間で共有している。		

グループホーム 本原一丁目

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者、職員が楽しく会話をしながら同じ食卓について食べている。利用者の嗜好に合わせた献立やアレルギーの対応は柔軟に行なわれている。また食器のサイズの工夫で食事量の調節を行ったり、体調に合わせた主食の変更も行なわれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能な状態になっており、利用者へ声かけを行い、本人の意思を重視しながらも、衛生面に気遣いながら声かけ誘導を行なっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	トランプ、千切り絵等のレクレーションやベランダ菜園、繕い物、生け花、マッサージなど個々の楽しみごとや、平和を願いながら千羽鶴作成、おやつをみんなで作ったり、買い物に出かけたり、利用者それぞれの気晴らしが行なわれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩に出かけたりしている。利用者の体調を重視しながら希望に沿った外出支援と、ベランダを利用し居室にこもらない工夫を行なっている。また、利用者からの要望で買い物に出かけたり、希望の美容院へ行くなどの支援も行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠は行っておらず、家族も自由に訪問ができる。職員の見守りと一階のデイサービスの見守りで実践している。また警察やタクシー・バス会社、地域住民にも協力を得ている。		

グループホーム 本原一丁目

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	年2回の消防訓練が実施され、利用者を含めた想定訓練がなされている。夜間想定については職員間で確認しており、また独自の避難経路を全職員が把握している。運営推進会議を通じ地域住民の協力も得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝昼夕の食事量と一日の水分摂取量は個人記録に記録されており、常に状態の確認ができるようにし、職員は一人ひとりに対応しながら支援している。食事専任の職員と介護職員とで栄養バランスの確認を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの廊下やリビング、エレベーターには季節感のある飾り付けがされている。リビングは日当たりよく、カーテンで調節しながら穏やかな雰囲気である。ただし、リビングは利用者が日中のほとんどを好んで過ごしているため、若干調度品が密集している。	○	利用しない時の食卓テーブルの配置など再検討し、リビングの有効利用を期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者の家族に協力を得ながら、使い慣れた調度品や飾り付けがなされており、本人の個性がある居心地のいい部屋となっている。		

※  は、重点項目。